

# うんごこくしせいたんち 雲居国師生誕地

●所在地／上三谷 ●所有者／個人

雲居国師の父は小濱左京いしじょうかねさだといい、主君一条兼定いちじょうかねさだに従って土佐中村の荘（高知県）に移ってきた。天正9年（1581）に長曾我部元親ちやうそがべもとちかが兼定を攻め、兼定は重症を負った。道後温泉とうじで湯治することを知った左京の妻は、主君兼定の乳母うばであったので、ぜひ看護したいと遠い道のりを会いたい一心で急いだ。身重だった彼女は、ここ上三谷の毘沙門堂びしゃもんどうで体を休めていると急に産気づき、りっぱな男の子を産んだ。この子が後に雲居国師となった。

雲居国師は伊達政宗だてまさむね・忠宗親子ただむねの再三の申し出を受け、宮城県宮城郡松島町にある瑞巖寺ずいがんじの住職となり、中興ちゆうこうの大業を成し遂げた。彼の生誕400年を記念して、昭和61年（1986）に顕彰碑こんりゅうが建立された。

